

1-1 建物概要

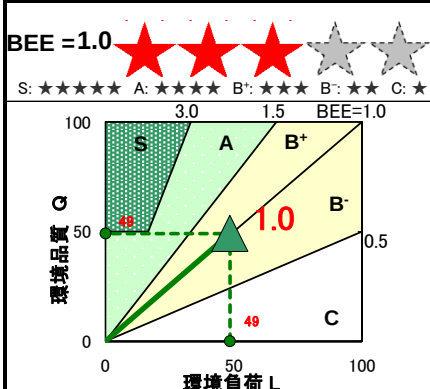
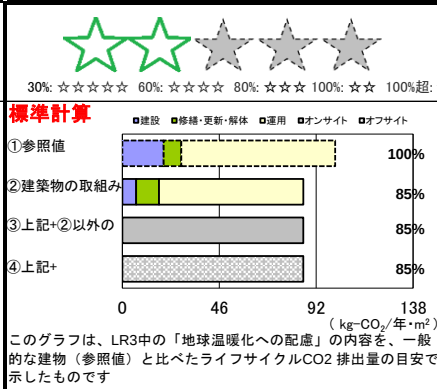
建物名称	(仮称)ガーラ生麦新築工事
建設地	神奈川県横浜市鶴見区生麦3丁目437-1 437-2 437-3 437-4 437-5 437-6 437-7 437-8 437-9 438-1
用途地域	商業地域、防火地域
地域区分	6地域
建物用途	集合住宅
竣工年	2027年7月 予定
敷地面積	700 m ²
建築面積	368 m ²
延床面積	3,492 m ²

階数	地上11F
構造	RC造
平均居住人員	230 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年5月28日
作成者	朝倉 崇夫
確認日	2025年6月19日
確認者	肥田 幸春

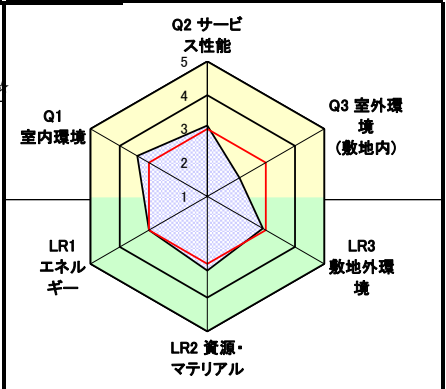
1-2 外観



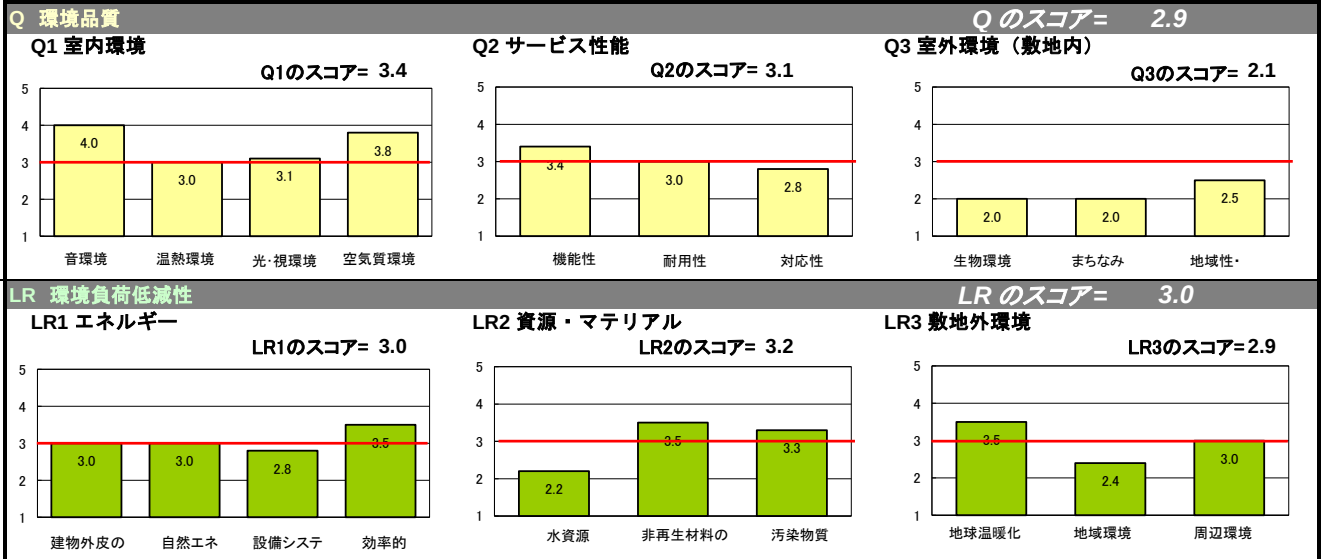
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	利用者へ配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	開口部遮音性能:T-2以上。 そして、室内騒音レベルを40 dBA以下とする。また、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	Q2 サービス性能 各住戸または各客室にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備されていること。そして、日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。
LR1 エネルギー	BEI=0.92。 そして、量水器、ガスメーター、電力計は各住戸に設置されます。	Q3 室外環境 (敷地内) 植栽をして良好な景観を形成している。
LR2 資源・マテリアル	LGSとGL工法を使用している。そして、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が85%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

受付日 2025年6月23日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)ガーラ生麦新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

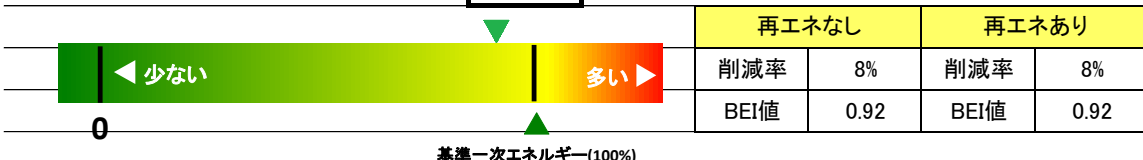
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 8 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

④量水器, ガスメーター, 電力量計は各住戸に設置されます。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級3相当。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)ガーラ生麦新築工事

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	2.9
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.4
1 音環境				5.0	0.15	3.8	1.00	4.0
1.1 室内騒音レベル				5.0	1.00	4.0	0.50	-
1.2 遮音				-	-	3.6	0.50	-
1 開口部遮音性能				-	-	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				2.6	0.35	3.1	1.00	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50	-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	1.00	3.0	0.63	-
2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	-	-	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境				2.7	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.50	-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.40	3.6	0.38	-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	5.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.1
1 機能性				2.2	0.40	3.8	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	5.0	1.00	-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.4	0.30	2.7	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	2.4	0.50	-
1 階高のゆとり				-	-	2.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				-	-	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	-

	3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-	-
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出		地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑳地域性への配慮	3.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			2.8	0.50	-	-	2.8
	集合住宅以外の評価		省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	2.8	1.00	-	-	-
4	効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価			3.5	1.00	-	-	-
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	4.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1	節水		1.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		4.0	0.20	-	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	-
	1	消火剤		-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)		4.0	0.50	-	-	-
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
	3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
	2	振動		-	-	-	-	-
	3	悪臭		-	-	-	-	-
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-	-
<事務所用途>					-	-	-	-
知的生産性向上への取組				快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-
健康と安心					-	-	-	-
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
	2	適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
	3	結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	1.0	-	-	-	-